

安倍首相は10月1日に消費税増税を発表した。景気の腰折れを懸念して値上げ時期をもう少し先延ばししたかったのだが、景気動向や2020年TOKYO五輪決定を受けて株価も上昇し、この機を逃すことはできなかった。首相が消極的でも財務省は先回りして消費税増税のお膳立てを整えていた。8月に行われた有識者による「集中心点検会合」では7割の委員が増税を支持した。消費税増税に反対もしくは消極的とする世論が5割を超える状況と異なる意見であるが、有識者の人選は官僚に委ねられているので会合以前に結論は決まっていた茶番劇であった。一日も早く「公職任命コミッショナー制度」の導入が待たれる。

消費税値上げは社会保障費を安定的に確保するためということであったが、それは詭弁に過ぎない。基礎的財政収支は70兆円(借金返済を引いた歳出)-43兆円(税収)=23兆円の赤字であるが、首相が演説で述べたように「基礎的財政収支の赤字を2015年度に半減し、2020年度に黒字化」ができなくても消費税率を元に戻さない。国の予算は特別会計という大穴が空いているので、いつまでたっても借金を減らすことはできない。国民が直接国家予算をチェックできる制度を設けない限り、財政再建はできない。消費税増税は焼け石に水である。国民はいい加減目を覚まさなければならない。官僚支配から脱却することを掲げるみんなの党や国民新党ができて巧みに潰されている。あるいは自滅へ導かれている。この国には本気で財政再建を考えている人がいるのかと疑いたくなる。深刻な状況になっているにもかかわらず、いつまでたっても借金時計は逆行しない。官僚自身が財政再建を妨害しているのを誰もが止められない国の仕組みに問題がある。

日本人の現在の平均寿命は男性80歳、女性86歳である。2012年の、高齢者1人を現役世代3人弱で支える「騎馬戦」型の社会から2050



「超超高齢」時代の国土計画と住宅政策

江原幸志

年には、高齢者1人をほぼ1人の現役世代が支える「肩車」型の社会に向かっている。日本人の死亡率の統計を見てみると、死因の上位3位は悪性新生物、心疾患、脳血管疾患である。近年、脳血管疾患に替わり肺炎が3位になりつつある。生活習慣病が上位を占め、医療費は38.4兆円(2012年)に上るため、厚生労働省は医療費削減のために予防医療に力を入れている。トクホ(特定保健用食品)の推進や健康食品の規制緩和はそのためである。

現在がん治療の研究開発は“時進日歩”の勢いで進んでいる。がん幹細胞の性質、がんの発症・転移のメカニズムも解明されつつあり、免疫療法などのがん治療の新たな方法が開発され、食事療法による予防が推進されている。がんの死亡数は年間35万人が0に近づく時代が来る。がんに替わり感染症などの他の死因が増加するかもしれないが、死因の上位が肺炎や老衰になり、この10年で平均寿命は90歳を超える。「超超高齢」時代に突入する。

現在、認知症高齢者は426万人、軽度認知障害高齢者は400万人で、2025年には団塊の世代が75歳以上になり、これらの数が増大する。今年8月に認知症高齢者がJR線路内に立ち入り、死亡事故を起こして列車を遅延させたことに対して賠償命令の判決が下ったことは、認知症高齢者を抱える家庭には大変ショッキングな出来事であった。認知症高齢者の問題は福祉政策、交通政策、住宅政策の問題であり、個人の責任を追究しても問題解決にはならない。今後住宅においても、認知症高齢者の介護を前提に考える必要がある。その時代の住宅政策や都市計画は今から準備しても遅いぐらいである。空き家・空きビル率が20%近くになり、その対策も考えなくてはならない時代である。現在は新築住宅は80万戸で市場規模が18兆円、リフォーム市場が6兆円の構成だが、変わらざるを得ない。

つまり「超超高齢」時代に突入し、中古住宅が

市場にあふれている時代に、新たな都市計画と既存住宅・建築をニーズに合わせてコンバージョンできる法制度の整備が急務である。リフォーム市場の足かせになり、省エネ効果の極めて薄い、新省エネ基準や外皮計算や低炭素促進建築よりも、「超超高齢」時代の都市計画と住宅政策が優先されるべきである。そのための「建築基本法」や改正建築基準法または「建築・住宅再生法」が必要である。「脱法ハウス」は建築・住宅政策が無策であることの一現象に過ぎない。「超超高齢」時代は、山村型コンパクトシティ、家庭菜園付き住宅、グループホーム高齢者住宅、3世代住宅、シェアハウス、SOHO住宅などになるであろう。

建築では違反建築が横行し、モラルハザードを起こしている。これは法律が現実と即していない法律になっているために起こっている。数が多いというのは個人・企業の問題ではなく、立法・行政の怠慢に起因している。省エネ法改正においても非現実的な法律であるために新たなモラルハザードを誘発している。官僚もアカデミーも、50歳以上の人間に現実と即した解決策を提示し実現できる能力がないことは現状を見れば明らかである。「超超高齢」時代にふさわしい新たな国土計画・都市計画・住宅政策の実現を次世代を支える側の40代以下の若い世代に期待したい。

- 安倍内閣総理大臣記者会見  
[http://www.kantei.go.jp/jp/96\\_abe/statement/2013/1001kaiken.html](http://www.kantei.go.jp/jp/96_abe/statement/2013/1001kaiken.html)
- ニュースでよく見る「基礎的財政収支」、ほんとに黒字化できるの?  
<http://thepage.jp/detail/20130809-00010000-wordleaf>
- 日本人女性、長寿世界一に返り咲き 男性の平均寿命は過去最高に  
<http://sankei.jp.msn.com/life/news/130725/trd13072515370007-n1.htm>
- 「3大死因」が変わるかも?  
[http://www.nli-research.co.jp/report/researchers\\_eye/2012/eye120605.html](http://www.nli-research.co.jp/report/researchers_eye/2012/eye120605.html)
- 日本人の死因を可視化する【追記あり】  
<http://pressroom81.blogspot.jp/2012/05/blog-post.html>
- 中古住宅流通、リフォーム市場の現状  
<http://www.mlit.go.jp/common/000135252.pdf>
- 中古住宅の流通促進・活用に関する研究会  
[http://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/jutakukentiku\\_house\\_tk1\\_000009.html](http://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/jutakukentiku_house_tk1_000009.html)
- 中古住宅市場活性化ラウンドテーブル  
[http://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/jutakukentiku\\_house\\_fr2\\_000022.html](http://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/jutakukentiku_house_fr2_000022.html)
- 社会保障制度改革国民会議報告書  
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kokuminkaigi/pdf/houkokusyo.pdf>



マンガ=上田隆

えはら・こういち | 木の建築設計  
1962年東京都生まれ。1987年東京理科大学建築学科卒業。1996年木の建築設計設立